

# フォレストニュース

植林が地球を救う  
平成24年(2012)3月10日  
No. 51  
発行 高津啓洋

**洪水後の報告** 昨年の洪水以後、正式に調査をし、終了しました。植樹された2万本の木の中で、特に水辺近くで数か月水没した木は被害がひどく、かなり成長した木も多くが枯死していました。確認方法は、発芽しない木の枝を切って確認しました。



地面一杯につる草が覆う

最終的に2月一杯かかって7期以外は調査を終了しました。

合計523本の木々が枯死していました。今後これらの木々の再植をどうするか検討しています。この場合、現地にあった水に強い木を植えたらと思っていますので、従来の樹種とは異なるものを再植される可能性が大です。ご了承いただけますようお願い申し上げます。(尚、個々の木のお問い合わせは、事務局の担当・戸石が受付



いたします)

また、水が入った地域でつる草の繁茂が激しく、現地労働者による手作業のつる草撤去作業が行われています。



◎第一植樹園の被害の木調査の中でも、つる草取りがおこなわれていますが、第二の農園でも、1000本のアセロラ畑でも、つる草取りが行われています。

かくも美しいつる草も、恐ろしい繁殖力で何重にも絡みついて、他の木々を圧殺して行きます。

ひとりではどうにもならず、遂に2月中旬から労働者2人を動員して、つる草取りに励んでもらっていました。つる草は、一つの木に何本も絡み上がり、且つ枝分かれしてまた四重、五重に絡み合い、

木全体を覆って、光を与えないだけでなく、締め付けて身動きできなくさせて木々を殺してしまいます。

背の高い4m、5mの木でも昇り詰めて行きます。そこに咲いたつる草の花は遠くから見ても近くでも本当にきれいです。花の分だけ実がついて行くことを思うと空恐ろしいものです。特に今後、洪水の被害を受けた木々の再植をする、新しい苗木の保護が重要となります。(飯野元理事より報告)



## 定例理事会

2月24日、高津理事長と理事役員が名古屋、千葉、東京の担当者も含めて集い、昨年の洪水問題を踏まえて、対策を協議しました。特に当会発足以来最大の被害を受けた、岸辺近くの植樹した木は、さっそく新規に、水にも強い木に変えて、景観を守るとともに、今後も気象変動等で起こりうる洪水対策として再植。

ある程度の堤防工事を行う等、生活を守る対策も重ねて行うようにしました。そうした点で、現地

での経費がかさむ点を今後の課題として、各理事が責任を持って、啓蒙するとともに、企業にも応援を依頼しそれぞれが400本の森づくりに挑戦できるようにと話し合われました。

## 森林の持つ大切な役割

前号で、森林の減少と温暖化を取り上げました

が、今回は森林の持つ大切な役割についてです。

①**気候変動の緩和** 樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収し、炭素を樹体内に蓄積しています。さらに、森林には、樹体内のほか土壌中にも、大量の炭素が貯留されています。

2007年に公表された気候変動に関する政府間パネル(ICCP)の第4次評価報告書によると、世界の温室効果ガス排出量の約20%が、森林が農地など他の用途に転用されたことにより排出されました。

地球が温暖化すると、海面が上昇することにより、世界の沿岸地域が水没し、自然災害の頻発、伝染病の蔓延など、著しい被害が発生すると言われています。

1. 森林を造成し、炭素の吸収を増加させること
2. 森林減少・劣化を抑制し、炭素の排出を抑制する

両者は気候変動の影響を緩和する重要な役割を果たすものです。(次回は、生物多様性の保全です。)